

戦後最悪! 新学習指導要領の特徴

その1

極限を超えた詰め込み教育

小学校で毎日6時間授業?

小学校では3年生から6年生が、今より1週間あたり1時間の授業増となります。

3年生は今の4年生から6年生並の年間980時間に、小学校4年生から中学・高校並の年間1015時間になります。

英語が3, 4年生には「外国語活動」、5, 6年生には「外国語」(教科)として、上乘せされるからです。

4年生

	月	火	水	木	金
1	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	○
3	○	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○
5	○	○	○	○	○
6		○	○	○	英

5・6年生

	月	火	水	木	金
1	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	○
3	○	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○
5	○	○	○	○	英
6		○	○	○	英

(○にクラブ、委員会は含まれていません)

都道府県名の漢字はすべて小学校で

今でも1006字すべて覚えるのは大変な状態です。そこに20字も新たに追加され、1026字になりました。小学生の負担がさらに大きくなります。

追加される漢字

茨、媛、岡、潟、岐、阜、熊、香、佐、埼、崎、滋、鹿、沖、縄、井、栃、奈、梨、阪

その2

英語教育の偏重

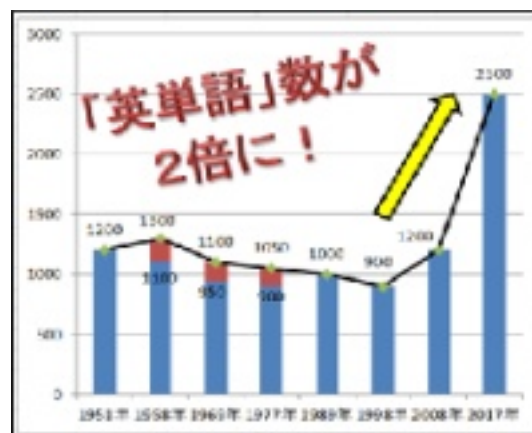
覚える英単語は2倍に!

小学校は英語が教科になり、アルファベット、単語、文型など、これまで中学校から学習していた内容が、5, 6年生に下りてきます。

習得語彙数は、小学校が今までは0語だったものが、600~700語になります。これは、今の中学校3年間で習う数のなんと半数に相当します。

中学校では今まで1200語だったものが1600~1800語と1.5倍になり、中学校卒業段階では、1200語から2500語と習得語彙数は2倍になっています。

小学校では、英語の免許をもっていない先生も英語を教えてよいことになっています。このような無謀な詰め込み英語では、力がつくどころか英語嫌いを量産することは容易に予想できます。



その3

「道徳」の教科化

心に評価をつけることに

国語や算数・数学など従来の教科は、それぞれ、学問的・科学的な研究の到達があります。しかし、道徳の場合は、その内容をその時々権力者が決めるという危険性が常につきまといます。

道徳が「教科化」され、価値内容を学習指導要領に規定することで、価値観を国が決めることが可能になり、特定の価値観を国が押しつけることにつながります。

これは、「天皇のために命を捧げよ」と教えた戦前の「修身」に通ずる非常に危険なことです。

中学校「道徳」の教科書検定の結果

今回の教科書検定では、8社の教科書が合格しました。そのうち3社には学習指導要領が求める「公共の精神」や「国を愛する態度」といった22の内容項目について、生徒が段階別に自己評価するページがあり、他の2社には生徒が項目を振り返って記述するページがあります。

道徳は内心の自由に関わる問題です。「愛国心」の度合いを自己評価させることは憲法の保障する内心の自由を、踏みにじるものといわざるを得ません。

